

J02-09 オールの置き方,運び方

How to place and carry the oars

「そのクルー/コーチが、どのくらいボートの扱い方を知っているかを知りたいければ、オールの両端とシャフトの摺り傷を見るだけで良い」

1 ブレードを上にも/下にも

オールは、基本的に、ハンドルを地面にブレードを上にも置きますが、状況によっては逆に置くこともあります。どちらにしても、風で倒れたり、誰かにつまずかれたりしないように、またハンドル端やブレードの先端が擦れて削られないように、十分注意しましょう。

オールをむやみにまたいではいけません。大切なもの、敬意を表するものの上はまたがないという伝統と、リスク(砂がスリーブにつく、つまずくなど)の回避のために。



オールは、シャフトを地面などに接触させないで置く。



オールをまたがないこと！

2 シャフト！

特にカーボンシャフトでは、細心の注意を払いましょう。荷重に対して強いシャフトも、表面に小さな傷をつけると、簡単に折れてしまいます。ガラス切りでガラス板を切るようなものです。

オールは、運んだり、置いたりするときの扱い方が、いたみ＝漕いでいるときに折れる危険に、おおきく関わります。オールは、シャフトを中心に、細心の注意で扱きましょう。

3 スリーブ！

発艇台などの清潔な床などの場合を除き、オールを地面(土や砂の上)に直接置くべきではありません。グリスを塗っていた一昔前ほどではないにしても、スリーブに砂をつけたりするリスクがあります。(補足:現代のプラスチックスリーブは、グリスなどを塗るのは不要とされていますが、より適切なケアとしては、シリコン系の潤滑スプレーを吹くことです。)



地面に直接オールを寝かせるのは避けよう。

4 運び方

オールは、ブレードを(何かに接触させず、よく見えるように)前にして、重心位置で持って運びます。肩に担ぐのは、伝統的に「ぞんざいに扱っている」とみなされ嫌われる姿勢であること、ブレードが、眼の高さに来て周囲の人にケガのリスクを増すことなどから、避けるべきです。



オールはブレードを前にして大切に運ぼう。



肩に担ぐのはなぜ？粗雑さは強さの象徴ではない。

数本のオールを束にして抱えてがちゃがちゃと音を立てながら運ぶのは、まるで、「レースのときに折れますように」と祈っているようなものです。シャフトに微細な傷をつけます。